

1. コラム「論点提起」：能登半島にみる超高齢社会における復旧・復興や如何

新年早々の令和 6 年 1 月 1 日 16:10 マグニチュード 7.6（最大震度 7）の逆断層型の地震〔令和 6 年能登半島地震〕が発生し、津波（最大遡上高 5.8m）、地盤隆起・移動（最大 4m 程度の隆起、最大 2m 程度の西向きの変動）、液状化（噴射、沈下）が発生し、大きな被害をもたらしている。地震はその後も続き（M7.6 の地震の直後からの地震活動は北東－南西に延びる 150 km 程度の範囲に広がっている）、大雨・大雪にも見舞われ、さらなる家屋倒壊、土砂災害の危険性が高まっている。地域/集落によっては二次避難が始まっている。

資料：気象庁 令和 6 年報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/press/index.html?t=1&y=06>

令和 6 年能登半島地震に関する情報 政府 地震調査研究推進本部（通称：地震本部）

https://www.jishin.go.jp/main/oshirase/20240101_noto.html

令和 6 年能登半島地震の評価 令和 6 年 1 月 2 日 地震調査研究推進本部地震調査委員会

https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2024/20240101_noto_1.pdf

専門家によると、今回の地震での課題として、10 個のキーワード「①複合災害、②時間外、③孤立、④ライフライン途絶、⑤デジタル喪失、⑥被害把握遅滞、⑦避難所環境、⑧行政・医療・福祉機能、⑨高齢化と過疎、⑩事前防災」を指摘している。

出典：能登半島地震で見えてきた 10 個のキーワード 福和伸夫名古屋大学名誉教授、あいち・なごや強靱化共創センター長 1/22(月) YAHOO!ニュース <https://tinyurl.com/yq4sfc7l>

この中の「孤立」「高齢化と過疎」「事前防災」は、今後の災害からの復旧・復興に重要なキーワードと思われる。「孤立」には、「半島」のように地理的な特性からくる非常時における交通・通信の遮断による孤立がある。今回の能登半島地震はまさにそのようなリスクを顕在化させた。加えて、家屋、生活インフラ、産業インフラ（漁港）の被害は、生活の糧、生活エリアの変更を含む厳しい選択を迫ることが予想される。避難・移転は自らの意思に反するものであり、そうした生活環境の激変が繋がりのあったコミュニティとの繋がりの遮断をもたらし、社会的孤立・孤独を惹起することが懸念される。場合によっては、関連死に至る。

能登半島を含む国内の 23 の半島を対象に、半島振興法 <https://tinyurl.com/yq6a4voc> は「地域活性化」をその目的に謳っているが、その前提として、リスクをきちんと認識した「レジリエント(適応力)」の確保が不可欠である。地方は元々「高齢化と過疎」が進行しており、今後さらに進むことが確実化されている将来に向けて、被災後の高齢者の生活維持、コミュニティ維持が果たして従来どおりに可能であろうか。従来どおりの復興を目指すことが果たして適切であろうか。孤立、高齢化、過疎は半島に限らず、東京を除く日本全国の将来像（消滅自治体の増加、国土の森化）でもあり、「救命」後の「復旧」「復興」のあり方を今一度、感情論、願望論を排除し、真剣に検討しておく必要があるのではなかろうか。

人口減少、超高齢社会、災害激甚化、そして地場建設事業者減少を想定した復興計画（道路啓開計画を含む「事前防災」）が問われているが、はたして迅速に事前準備できるか如何。